

東京 IPO 特別コラム

2017年10月16日 Vol.99

祝！！日経平均21000円台乗せ

海外株高や企業業績の向上、総選挙での与党優位のメディア報道を背景に日経平均は2015年6月の高値20952円を一気に抜けて21年ぶりの高値水準である2万1000円台乗せとなってきました。この先の展開がどうであれ素直にこうした流れを祝したいと思います。つい先日までは弱気の意見も見られましたが、ドルベースの日経平均は以前より高値を更新し、東証2部やJASDAQなどの中小型株指数は連日の高値更新を続けていましたので、ここでの高値更新は当然の流れかも知れません。それでも有事が年末から年始にかけて起きるといった観測もあってこの先の不安感が払拭されたわけではないことに留意しておく必要があります。

指数の中で唯一余り元気のないのがマザーズ指数ですが、これは主としてそーせいG(4565)に代表される創薬ベンチャー銘柄の株価停滞に起因していると推察されます。直近IPO銘柄には上場後大きく居所を変えたPKSHA Technology(パークシャテクノロジー・3993)や半導体関連のデジタルメディアプロフェッショナル(3652)のような開発系の銘柄の活躍が見られるなど同じマザーズ銘柄でも相応に人気化する銘柄が見出せます。主力銘柄主導での株価上昇ながらもクロスフォー(7810)やズーム(6694)、ネットマーケティング(6175)のように中小型株への物色機運は継続しています。また、子育てや教育、防衛、サイバーセキュリティ、IoT、AI、VR、フィンテックといったテーマ株への物色気運は相変わらず続いておりこうしたテーマに沿った銘柄への循環物色が基本的な相場の潮流となっています。全体指数が上値を追う中で個別銘柄にはなお、停滞気味の銘柄が散見されますが、今後は出遅れ気味の銘柄にも物色気運が高まることも想定されます。

全体相場が上昇する中で10月5日にウェルビー(6556・M・公開価格2580円⇒初値3305円)、MS&Consulting(6555・M・公開価格1280円⇒初値1250円)、大阪油化工業(4124・JQ・公開価格1860円⇒初値3100円)の3銘柄が同日にIPO。前2銘柄は上場後比較的穏健な値動きですが、大阪油化は精密蒸留技術の分野で高い評価を得ており、関心が高まっており初値から本日の4900円まで58%の上昇が見られます。

10月の後半は25日にシルバーライフ(9262・M)、テンポイノベーション(3484・M)、26日にSUKIYAKI(3995・M)、31日にCasa(7196・T2)のIPOが予定されていますが、この中ではファンクラブ・ファンサイトサービス、マーチャンダイジング及び電子商取引サービス並びに電子チケットサービスを展開するユニークな社名のSUKIYAKIが注目されます。市場ではフリマアプリを展開するメリカリのIPOが噂に上っており、スマホ関連、Eコマース関連銘柄への関心が高まるものと考えられます。

(東京IPOコラムニスト 松尾範久)